

「古川」テーマに取材 環境やゴミ問題探る

京都文教大学と城陽市市民活動支援センター、洛南タイムスの共同による「子ども記者クラブ」。今年度の第1回目は、城陽市や宇治市、久御山町を流れる古川について調べました。子どもたちは自然環境やゴミ問題について意見を出し合った上で、3グループに分かれてそれぞれ記事をまとめました。連載3回でお届けします。



Kyoto Bunkyo University
京都文教大学
文部科学省
地(知)の拠点
城陽市市民活動支援センター
(株)洛南タイムス社
No.1



「水辺で遊べる古川をつくる会」の仲さんの話を聞く子ども記者たち

①古川をきれいな川へ



寺田西小6年
山本真央記者



寺田西小6年
三宅由華記者



寺田西小6年
宗戸琴葉記者



地域を流れる古川(城陽市寺田)



古川沿いに捨てられたゴミ

今の古川は、小さなあきかんやビニールぶくろ、大きなタンスまでたくさんゴミがあります。「水辺で遊べる古川をつくる会」の仲明彦

さんの話によると、オートバイやさいふ、めんきよ証などの大切なものもゴミになっておちており、びっくりしたそつです。

「水辺で遊べる古川をつくる会」の仲明彦さんは、ゴミを捨てるのは、ポイ捨てをしてもいいと思う人がいるからだと思います。決めるために、例えば自分たちで拾えるゴミを拾ったり、ポイ捨てをしている人

を見かけたら注意したりするなど、みんなで協力して、古川をきれいにする活動が必要です。私たちは、少しずつ小さなゴミを拾う活動で、古川の印象をきれいな川に変えたいと思っています。

【山本真央、三宅由華、宗戸琴葉】

探求心から

ふるさと愛着へ

子ども記者クラブは、文科省採択の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」の一環で、3者による共同研究事業。記者体験の活動を通して、子どもたちの地域への関心や愛着を深めることがねらいです。

2年目を迎え、今年度の記者クラブでは、より地域への関わりを深めようと、自分た

「水辺で遊べる古川をつくる会」の仲さんの話を聞く子ども記者たち

まず1回目の企画会議では、地域のイメージや課題を挙げて、紙に書き出していきました。その中で多かったのが「ゴミが多い」など環境問題です。実際に自分達の目で見、実態を探ろうと、身近な地域を流れる古川をテーマに取材することにしました。

3回目には古川の清掃に取り組み「水辺で遊べる古川をつくる会」の仲明彦さんを招き、話をうかがいました。その後、3つのグループに分かれ、古川の実状や課題、提案